

第1回 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会会議録

日 時 令和5年4月28日(金) 午後3時30分～5時00分

場 所 宇治市役所 8階 大会議室

出席者

委 員 佐川委員、杉本委員、松井委員、坂本委員、岩崎委員、藤田委員、中西委員

事務局 松村市長、岸本教育長、福井教育部長、上道同部副部長、岡野学校教育課長、
垣見同課兼学校改革推進課主幹、大槻学校改革推進課担当課長、
波戸瀬福祉こども部長、柏木同部副部長、栗田保健推進課長、平同課副課長、
松井保育支援課長、齊田乳幼児教育・保育支援センター準備室主幹

会議内容

1 開会

- ・事務局より「宇治市乳幼児教育・保育推進協議会の会議の公開に関する要項」に基づいて、公開で会議を進めていくことを確認
- ・事務局より、会議の成立確認報告

2 委嘱状交付

- ・松村市長より委嘱状交付

3 市長あいさつ

- ・松村市長より挨拶

4 委員・事務局紹介

- ・委員紹介
- ・事務局紹介

5 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会設置要項について

- ・事務局より、資料1に基づき説明

6 会長及び副会長の選出

- ・委員の互選により会長に佐川委員、副会長に杉本委員を選出

7 乳幼児期の教育・保育の今後のあり方について

・事務局より、資料2 - 1、2 - 2に基づき説明

会 長： ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局からの説明を踏まえて、委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言いただきますようお願いいたします。

異議なし

それでは、この部分も含めて後ほどご意見をお聞きしますので、何かありましたらその時にお話してください。

8 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会について

・事務局より資料2 - 2、資料3に基づき説明

会 長： ご説明ありがとうございました。それでは、ただ今の事務局からの説明を踏まえて、まず、資料18ページから21ページにかけての部会を設置することや部会の数、検討体制のイメージ、全体的な構成につきまして、委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言いただきますようお願いいたします。

委 員： 基本的には異論はないですが、部会に分けるといふことでのマイナス点をカバーできるように、2つの部会の報告会みたいなものがあって、両方に意見が述べられるような仕組みはあった方が良くかなと思うのが1点と、もう1つは、例えばこの会議等に出られないことがあったときに、代理の者の出席を認めていただけてありがたい。もちろん、事前に宇治市の方に相談を申し上げてこの方でいかがですかということでしたら了解を得た上では思っておりますが、そうしていただくと欠席なく参加することができると思っております。以上です。

事務局： 代理は、この検討会か、部会か、どちらともなのでしょうか。

委 員： できるだけ出席するようにはしますが、欠席してしまうと述べたかった意見が出ないこともあるので、両方ともであるとありがたいと思います。

事務局： 部会の情報共有につきましては、報告会といいますか、推進協の方で共有もしつつ、かつ、各部会がどのような議論をされているかにつきましては、両部会の方にも情報が共有できるような仕組みを作っていきたいと考えております。欠席の扱いにつきましては検討させていただきます。

会 長： 専門部会で様々な意見が出たことが、協議会で報告があり、それについて協議会で委員が意見を言う機会があるという理解でよろしいでしょうか。

事務局： そのような考え方で考えております。

委 員： 当センターの所属が京田辺市になりますが、これから専門部会が動いていく中で、その部会員は宇治市の方限定なのか、宇治市在住のお子さんも当センターに通われているので、色んなことに当センターの職員も参加をし、交流させていただきたいなと思っているのですが、いかがでしょうか。

事務局： 22ページの下段表になりますが、専門部会員構成案としまして、6区分挙げている中で、療育施設の従事者ということで、宇治市の療育の施設の方も想定しておりますし、こども発達支援センターの方からも出席していただけるのであれば非常にありがたいと考えております。

会 長： 22ページにある療育施設の従事者というのは、宇治市内の療育施設もあれば、京田辺市のこども発達支援センターも専門部会に入っていたかという可能性があるということですね。

事務局： こども発達支援センターは京田辺市にあるものの、京都府南部の中心的な役割を担っていただいている専門機関だと理解しており、ご参加をお願いしているという認識でございます。

委 員： 専門部会が具体的な話を進めるにあたってはとても重要な意味を持っていくのかなと感じております。小学校の関係者というところでは、どのようなものをイメージされているのでしょうか。もう4月も始まってそれぞれで分担が決まっておりますので、そのあたりのイメージを教えていただければと思っております。

事務局： 例えば、保幼小連携であれば、昨年度、京都教育大に出向という形で長期研修に出られていた先生や、小学校の低学年、特に1年生を受け持っておられる先生であれば、連携に向けた意見をいただきやすいのではないかと考えているところでございます。

委 員： 複数名ということでイメージしてよかったですか。

事務局： 基本的には「保幼小連携」と「発達・子育て支援」、両方の部会に市内の小学校の先生に入っていたかと思っております。

委員： それぞれの部会ですけれども、大体どれくらいの規模・人数を想定いただいているのかお伺いしたいです。

事務局： メンバーの構成など色々ご意見をいただきたいと思いますのですが、おおむね10人程度を考えているところですが、皆さんのご意見をいただきながら人数というのは確定していきたいと思っております。ただ、それぞれの専門部会でご議論いただくということは、30人、40人も参加して良いかというわけではないと思いますので、一定、それぞれの所属のところからの代表という形で出てきていただけるような形をとりたいと思っています。ですから、全体の数は書いておりません。

委員： 分かりました。ありがとうございます。およそ、リーダー的な方で構成されるのかなと思うのですが、例えば何回か部会がある中で同じ人が全てに出席するというのではなくて、例えば、3名くらいいる中で順番に出ていくというような形も構わないという認識でしょうか。

事務局： できたら継続的な議論をしていきたいという思いもありますので、基本的には、固定をお願いしたいと思っています。そこで出た意見を各園の方にどういった形で出していくか、もちろんその部会や、委員の方々、この場の協議会の委員の方々の共有もですが、施設類型のところではどういう形で共有していくかというのは、またご議論、ご意見をいただけたらと思います。

委員： 了解しました。ありがとうございます。

会長： ほかに22ページの部会員の構成につきまして、委員の皆様からご意見等はございますでしょうか。

- 異議なし -

もし、この事務局案どおりということでしたら、杉本副会長、松井委員におかれましては、専門部会の部会長という役割を担っていただきたいと思いますと考えておりますが、よろしいでしょうか。

- 了承 -

ありがとうございます。ご多忙のところ、恐れ入りますが、専門部会の運営について、よろしく願いいたします。

事務局： できましたら、大体どれくらいの人数か、私立幼稚園、民間保育所からどれくら

い出るのがいいか、学校からもどれくらい出るのがいいかというご意見をいただければ大変ありがたいなと思います。

委員： それぞれの専門部会に2名ずつくらいかなと思います。ただ、この課題は私よりもこの方のほうが専門性があるなということを感じた時などには、その旨をお伝えした上で、その者と変わるということもあるとよいのかなという気もするのですが、継続性はもちろん重視していきたいと思うので、それはその時に感じたらということで、民間保育所、認定こども園はだいたい2名ずつくらいで思っております。

事務局： それぞれに2名ずつ、計4名ということでしょうか。

委員： はい。

事務局： 私立幼稚園はどうでしょうか。

委員： 4名でしょうか。

事務局： 「他の私立幼稚園の代表の皆さんとご相談します。」というご回答でも結構です。

委員： 今のところ、今日初めての会議ですので、これを持ち帰ってこの会の報告をしつつ、その中で適した方に出ていただくことになるかと思うので、私からは人数的に今は申し上げにくいかなと感じています。

事務局： 専門部会そのもので関わっていただくのが、私立幼稚園、民間保育所・認定こども園でどういう形にしていくかについて皆さんのご意見をいただいていこうかなと思っております。例えば、この意見に対して詳しい方という話の部分でいくと、その部分だけ増やして関わっていただくということも考えられますし、逆に人数が多くなりすぎると議論にならないというものもあるかと思っておりますので、そこはまた事務局で検討いたします。

いずれにしても、複数人を私立幼稚園、民間保育所・認定こども園、それから公立の小学校、療育施設の方について考えております。公立の小学校からは複数人は難しいでしょうか。

委員： 自分の勤務校の状況は分かりますが、小学校全般の話となるので、現段階では何とも言えないです。

事務局： 少なくとも私立幼稚園、民間保育所・認定こども園については複数人という形で

考えさせていただいてよろしいでしょうか。公立の幼稚園からは複数人は難しいと思いますし、公立の保育所はご相談させていただきながら別途どうするかというのを考えていきます。

会 長： 続きまして、23ページの令和5年度のスケジュールにつきまして、委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言いただきますようお願いいたします。

委 員： スケジュールを見させていただくと、第1回の専門部会が6月に予定されているということになっていますので、先ほどの部会員構成でありました人選につきましてはある一定の時期を決めて、いつまでという形になると思うのですが、それをしつつ、1回目の部会の持ち方についても、それぞれの部会の委員さん、今日お集りの先生方とのお話も並行してやっていくということが必要なのかなと感じているのですが、その準備についてはどちらかが順番に主導して行うことになるのでしょうか。

事務局： いきなり専門部会として主任級の方に来てもらうというのはステップとしては大きなものがあるかもしれないので、今回の推進協議会の中で部会に属していただいた委員の方と一度、どういうことを議題にするかについて考えていくのも、ステップとしてはあるのかなと考えております。準備につきましては、事務局できちっと調整させていただいて、部会長の先生方と相談させていただく中で準備を進めていきたいと思っております。

委 員： まだ決まっていないこともたくさんあると思うので、その状況は分かっているのですが、依頼するにあたって、例えば今年度であればどれくらいの会議に出るのか、時間的には何時間くらいの拘束になるのかということが、およそで分かるとその部会員をお願いするにあたってもお話がしやすいのですが、どうでしょうか。

事務局： 開催日の曜日や時間などもご相談させていただきたいと思います。大体3～4回とさせていただいて、こういう会議ですので皆様のご都合から考えると1回2時間までと思っております。

曜日につきましては、どなたがどういう状態の方が一番出やすいのかというのがあると思いますので検討させていただきたいと思います。

とりあえず、協議会の中で専門部会に担当していただく方が3名ずつ決まりましたので、その方を中心にどういうふうに進めていくか、ご相談をさせていただく形をとりたいと思います。ただ、部会員にご就任いただく方を選んでいただくことにつきましても同時にさせていただく必要があります。部会の回数については、12月くらいまでの間におおむね3～4回を想定していただけたらと思います。

会 長： 今お話にも出ましたけれども、専門部会につきましては、主任級の職員の先生方に参加していただくことを想定していますので、この専門部会の開催時間や回数であったり曜日であったりについては、職員を部会員として参加をお願いする場合に、ある程度、各施設のご事情やご意見を伺いたいと考えていますが、この点について、保育所も運営時間も夜までですし、いろいろご事情があると思うのですが、職員を出していただくにあたって各施設のご事情やご意見など何かございますか。

委 員： 部会開催の日時につきましては、他の施設の事情も考慮して決めていただくことになると思いますが、例えば公立保育所では児童の年齢別に応じた部会を各園1名ずつ参加する形式で、年3回程度開催しており、保育所運営に差し支えない曜日として、週初めと週末を避けた、火曜日又は木曜日、時間帯は午睡やおやつの時間帯となる、14時30分から16時頃にかけて設定しており、それに近い形であれば、参加しやすいのではないかと考えております。

会 長： ありがとうございます。民間保育所・認定こども園はいかがでしょう。

委 員： はい、大体同じです。

会 長： ありがとうございます。公立幼稚園はいかがでしょう。

委 員： 他の施設の方の事情を考慮して決めていくことになると思いますが、公立幼稚園の方は午後2時まで午後保育をしておりますので、その後の方が出させていただきますには時間としては都合がつかます。移動の時間などもご配慮いただいた中で時間を決めていただければありがたいと思っております。

会 長： ありがとうございます。先生方を出していただくにあたって私立幼稚園はいかがでしょう。

委 員： 自園から出すということではないと思っておりますので、組織の中で考えていくということになると思います。できる限り努力をして選出していきたいと思っております。ありがとうございます。

会 長： このことについて公立小学校はどうでしょう。

委 員： 私立幼稚園でのお話にもありましたが、市内の小学校は22校あって、小学校でもそれぞれ勤務体系や時間割も様々でございますので、ご相談しながらそのあたりは決めていただいて、できるだけ早期に委員となられる方に伝えて調整を図っていききたいと考えております。

会 長： 部会員を推薦するにあたって、まだご不明な点はございますでしょうか。

委 員： 主任級と書いているのですが、例えば、若手の園長など適した人材を出したいという思いがございますので、若干の幅を持たせていただけるとありがたいのですが。

事務局： 位置づけとして主任級という言葉を使っているだけですので、適した人材を選出頂けると非常にありがたいです。

会 長： 主任級でなくても、現場のことをよくご存知の方であればということでもよろしいでしょうか。

事務局： はい、そのとおりでございます。

会 長： 事務局案でこのスケジュールの中で、1回目の専門部会において「現状の課題の抽出」とありますが、委員の皆様が感じておられる現状の課題や、専門部会で話し合ったり、共有したいと考えられる内容があれば、ご発言いただきますようお願いいたします。例えば、保幼小連携専門部会の場合は保幼小連携の現状の課題を1回目を出していくような理解でよろしいでしょうか。

事務局： 資料20ページのところでセンターの3本の柱を書いていますが、「保幼小連携」であれば、丸印のところの行事の連携などの顔の見える関係づくりやカリキュラムの連携、要配慮児の課題の共有等がありますが、こういったことをどうすればできるのか、こういう観点についての課題、今こういう状況であるということを伺えればと思っております。

委 員： まず、意外と同じ就学前の子どもを受け持っていないながら、公立の幼稚園さんや保育所さん、私立の幼稚園さんがどのような形の保育をされているかについて、実はあまりよく知りません。そのあたりのお互いの違いを活かしあうような観点から、現在されているようなカリキュラムの点や実践の面で、日常の中での課題の抽出の方法もあるのかなと思っています。それぞれのところで、今まで培ってこられた大切なものがいっぱいあると思うので、そのあたりのことを純粋に知りたいのと、どのように取り組んでこられたのかなということを知って、活かせるところはお互いに活かしあって、また課題の抽出につなげていけるようになればいいと思います。

会 長： 専門部会では施設類型を越えて様々な立場の、様々な施設類型の方々が集まりま

すので、それを知り合いながら、共有しながら課題を抽出できたらいいのかなと思います。それが専門部会の部会長をされるお二人とも相談しながら、テーマややり方を決めていくということによろしいでしょうか。

事務局： 進め方などは部会長の先生方としっかり相談させていただいて決めていきたいと思っております。

会 長： 色々な方が来られる場なので、会議という形式というよりは、具体的に色々な意見が出しやすいようにデザインを考えていかれることと思います。部会長の方、よろしく申し上げます。

事務局： 「保幼小連携」にしても「発達・子育て支援」についても、これまでそれぞれが何もできて来なかったわけではありません。例えば、「保幼小連携」のところという、公立幼稚園や私立幼稚園を中心に色々な取組を小学校と既にやっていらっしゃる部分があると思います。また、「発達・子育て支援」の部分でいうと、療育施設と保育園との連携の部分では進んでいるところがあるのも事実かと思えますので、まずはそこを見つめ直していただきながら、取り組めるところは取り組んでいく、ここは全体の課題として研修としてやっていく、あるいはこれは研究テーマとして深掘りをして、その深掘りしたものを発表するという場を通じて広げていく。仕組みも色々あると思っておりますが、「研究・研修」だけ最初に部会を立ち上げなかったのは、その仕組みだけ議論してもどうなのかということと、何かの課題があって初めて検証していくとか、これを研究にする方がいいのかなということが出てくるのかなということで、当面の間、令和5年度については、2つの専門部会という形でさせていただきます。「研究・研修」の部分は2つだけのテーマではないと思っており、これから先色々な課題が出てくると思っていますので、「研究・研修」の仕組みがある程度できたところで、部会として立ち上げていくところかなと事務局として感じまして、こういうイメージを書かせていただいております。今までの取組の現状の課題、各園が取り組んでいらっしゃる部分をどういうふうに見ていくかということかと思えますので、日程は3～4回とお話をさせていただいておりますが、それで完結するというものではなく、やれるところから一歩ずつ前に進んでいくというのがベースではないか感じております。必ず年度内に形になるものというのではなく、1つのテーマ、1つでも良いからという形で前に進めていければいいかなと感じていますので、よろしく申し上げます。

会 長： それでは、6月に1回目の専門部会ということで、部会長の方を中心に事務局と相談していただいて、現状の課題についてどのようにしていくかということを考えていただきたいと思います。ありがとうございます。他に全体的にご意見などございましたらお願いします。

委員： 私の見落としであれば申し訳ないのですが、どこにも支援学校というワードが出てこないのですが、支援学校に在籍されている方々や支援学校の先生方が、どのタイミングでこの場で共有されたことを目にされるのか、子供たちはどのタイミングでどこを対象として、宇治市の中でのサポートになっていくのかなというところが、少し気になったので、ご意向等あればお聞かせいただきたいなと思っております。

事務局： インクルーシブ教育や特別支援教育に関して、今年度から事業を実施しようとしているところでございます。それを小学校や中学校で実施することによって、就学前施設のお子さんについても、特別支援の視点で支援することによって小学校へ引き継いでいく、そのところで特別支援学校のお力をお借りしながら、色々研究などを進めていこうとしておりますので、支援学校のところはそこでお世話になるかなというように今考えているところですが、今後のこの乳幼児教育・保育推進協議会の中でもそういう段階を踏んでいくことによって、支援学校との関係というのにも必要になればご依頼をいただくことになっていくのかなと思っております。

委員： ありがとうございます。おそらく、この場で委員や宇治市の方とたくさんお話をされたことが市民の方に公開されると思うのですが、支援学校を考えていらっしゃる保護者の方がこれを目にされて、支援学校の子どもたちがどこでどうサポートしてもらえるのだろうかなど、色んな知識や認識が追いついていない保護者の方がもしいらっしゃれば、疑問に思われるのではないかなと思います。少しでも疑問に思われる前に、この場とは違う場所でちゃんと考えていますというところが少しでも盛り込まれると、宇治市の子としてちゃんとサポートしてもらえるという記述があるといいなと思うのですが。

事務局： 幼稚園、保育園、認定こども園にいる子供たちはもちろん、療育に通っている子供たちで、小学校をどこに行かれるかは別にして、すべての就学前の施設に入っているお子さんを対象にしていきたいと思っております。先ほどお話をさせていただいたインクルーシブ教育というのは、小学校あるいは中学校の中でも、支援学校との連携あるいは支援学級、通所学級も含めた連携のところで想定をして進めようとしており、この乳幼児教育・保育支援センターでは、全ての子どもへの健全な成長につなげることは絶対に必要であると思っておりますし、やっていかなければならないところかなと思っております。

就学前という話の中で、お子さんが3歳児、4歳児である保護者の方で、就学先を支援学校と決めておられる方をあまり想定しておらず、就学前の段階では、まだまだご自分のお子さんの可能性を見ていらっしゃる方が多いのではないかと考えております。

委員： 申し訳ありませんが、人数的なところを把握しているわけではありませんが、ごく一部の方であったとしても、やはりご自分が親であれば心配になられたり、地域の学校を目指していても順応するのが難しく、通常学級に行くのが難しいかもしれないと感じていらっしゃる、当センターに通っておられる低年齢の保護者の方でも、うちの子は難しいから、焦ることなく、無理をすることなく、安心して学習するのであれば支援学校も1つかなと思っておられる保護者の方もいらっしゃるのです、そのことが何とかなればいいなということでお話させていただいたので、必ず盛り込んでほしいということではなく、どこかのタイミングでごく一部の方であっても少し手を差し伸べるような何かがあればいいなと思ったので、今すぐ何かをしてほしいとかということではありません。

事務局： このセンターのところでいくと、発達障害のお子さんを対象とすると考えると、ここからの小学校との連携というのはご指摘があった特別支援学校との連携も必要なものと思っておりますので、順を追って考えていけたらなと思っております。それを発信できるようなことは考えていきたいと思えます。

会長： ありがとうございます。ただ今の委員の皆さんのご意見を踏まえて、今後の専門部会を含む協議会の運営につきまして、事務局を中心に会長である私や、部長と調整の上、進めていくというかたちで進めてもよろしいでしょうか。

- 異議なし -

ありがとうございます。では、そのように進めていきたいと思えます。

9 令和5年度乳幼児教育・保育推進事業 研修計画（案）

・資料4に基づき、事務局より説明

会長： ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局からの説明を踏まえて、委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言いただきますようお願いいたします。

委員： 研修内容ということではないのですが、できるだけ研修に関心をもっていただいて、1人でも多くの方に参加を促していくということの観点から、まだまだ研修がある中で、これに全部参加したいというような思いを持っていただくために、もし可能であれば府のキャリアアップ研修の認定を取れるような資格を考えていただけたらなと思えます。

事務局： 今回の研修につきまして、キャリアアップ研修への位置づけをというお話ですが、当然研修を受けていただくためのモチベーションの確保の観点からもそういった位置づけも考えているところでございます。認定が京都府になりますので、確認を取りながら検討を進めてまいりたいと考えております。

事務局： 私立幼稚園連盟がされている研修の中でも何らかの位置づけができれば、一番受けていただくことが可能かと思っておりますので、それぞれの団体とも調整させていただきたいと思っております。

10 その他連絡事項

事務局： 今日の協議会を踏まえまして、また専門部会の開催の日程調整等につきましても検討の上、改めてお知らせをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

会長： ありがとうございます。では、全体を通して何か言い残したこと等がございましたらご発言よろしくお願いいたします。

委員： 研修計画を見させていただいて感じたことですが、昨年度、宇治市立幼稚園教育研究会研修会を実施するにあたり、私立幼稚園の先生方にもご案内し、参加していただきました。公立私立両方の先生方からこのような機会をもて良かったという声がありました。お互いを知る機会であったり、交流できたりしたことが本当によかったし刺激になったというご意見もいただき、こういう機会が大事だなと感じました。

施設類型を越えて学び合いたいという思いで保育所(園)さん、私立の幼稚園さん、認定こども園さんなど就学前施設の方とのこういう機会を積み重ねていけたらうれしいことだなと感じています。そういうことに微力ながら自分が少しでも携われたらと感じております。

委員： 最初冒頭は楽しみにしていたとお話させていただいたのですが、大きな夢みたいな話になるのですが、今回の取組がいずれ、宇治市の子どもたちが意見を表明したり、参加していくようなことにつながっていったりするといいなというように感じています。

会長： ありがとうございます。今回参加型研修ということで、今年も7番目に保育所の公開保育から学びあうという研修も入っておりますし、そこで互いの保育を見合ったり、語り合うことで隣の園のことが知れたりということがありますので、そのネットワークをつくりながら、研修を進めるということが研修の中身だけではなく

くて、とても重要なことだと思います。その中で良い実践を共有し合って、意見を表明できる子どもが育まれるようにしていきたいなと思いますので、公立私立問わず、この研修が色々な施設類型を越えてご参加いただけるように、ぜひ委員の先生方も案内や自園の先生方も送っていただけたらありがたいなと思います。

研修等に関しまして何かご意見ありますでしょうか。

事務局： 専門部会の関係の話に戻りますが、資料の21ページのところに三層構造というお話を先ほどさせていただきました。その中で専門委員を外部有識者というかたちで発達障害の小児科の先生ですとか、特別支援学校の幼児教育センターがございいますので、そちらとの連携の部分であるということを事務局として想定しております。もしこの部会でご検討いただく中で、こういう有識者の方がいいのではなにかというのがありましたら、ご意見等賜れば大変ありがたいなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

会長： この点につきまして、専門委員、外部学識有識者について、今ご意見ある方いらっしゃいましたらご発言お願いいたします。

事務局： これからの事務局との打ち合わせの時でも結構ですので、こういう方が入ったらどうかというのを教えていただけたらと思います。

会長： 必要に応じて指名ということですので、そういった方がいらっしゃいましたら事務局にお伝えいただきますようお願いいたします。

11 閉会

会長： 以上をもちまして、本日の議題はすべて終了とし、第1回目の協議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。